

グローバル厳選株式ファンド

運用報告書（全体版）

第1期（決算日 2020年8月20日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。
「グローバル厳選株式ファンド」は、2020年8月20日に第1期の決算を行いましたので、期中の運用状況ならびに決算のご報告を申し上げます。
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／株式
信託期間	2019年8月28日から無期限です。
運用方針	日本を含む先進国および新興国の株式を実質的な主要投資対象とし、信託財産の積極的な成長を図ることを目指して運用を行います。
主要投資対象	RAMグローバル厳選株式マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）の受益証券を主要投資対象とします。
主な投資制限	①株式への実質投資割合には、制限を設けません。 ②投資信託証券（マザーファンド受益証券および上場投資信託証券を除きます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 ③外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。
分配方針	毎決算時に、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等を分配対象額とし、原則として基準価額の水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。

<照会先>

電話番号：0120-223351

（委託会社の営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ：<https://www.resona-am.co.jp/>

りそなアセットマネジメント 株式会社

東京都江東区木場1丁目5番65号

【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額			MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス (配当込み、円換算ベース)		株式組入比率	純資産額		
	(分配落)	税金 分	み 配 金	期 騰 落	中 率			(参考指数)	期 騰 落
(設定日)	円		円		%		%	%	百万円
2019年8月28日	10,000		—		—	110,291.26	—	—	500
1期(2020年8月20日)	13,356		0		33.6	128,727.59	16.7	99.0	667

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額（元本＝10,000円）です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

(注) MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス（配当込み、円換算ベース）は、MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス（米ドルベース）をもとに委託会社が円換算して計算したものです。MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス（米ドルベース）は、MSCI Inc. が開発した、日本を含む先進国および新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものであり、指数に関する著作権、知的財産権その他の権利はMSCI Inc. に帰属します。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス (配当込み、円換算ベース)		株式組入比率
	騰 落	率	(参考指数)	騰 落	
(設定日)	円		%		%
2019年8月28日	10,000		—	110,291.26	—
8月末	10,176		1.8	112,398.45	1.9
9月末	10,536		5.4	116,649.33	5.8
10月末	11,126		11.3	121,320.19	10.0
11月末	11,551		15.5	125,531.11	13.8
12月末	11,869		18.7	129,735.04	17.6
2020年1月末	11,715		17.2	128,973.81	16.9
2月末	10,716		7.2	119,656.12	8.5
3月末	9,696		△ 3.0	101,820.04	△ 7.7
4月末	10,733		7.3	110,845.67	0.5
5月末	11,640		16.4	115,582.06	4.8
6月末	12,116		21.2	118,392.47	7.3
7月末	12,620		26.2	122,319.03	10.9
(期末)					
2020年8月20日	13,356		33.6	128,727.59	16.7

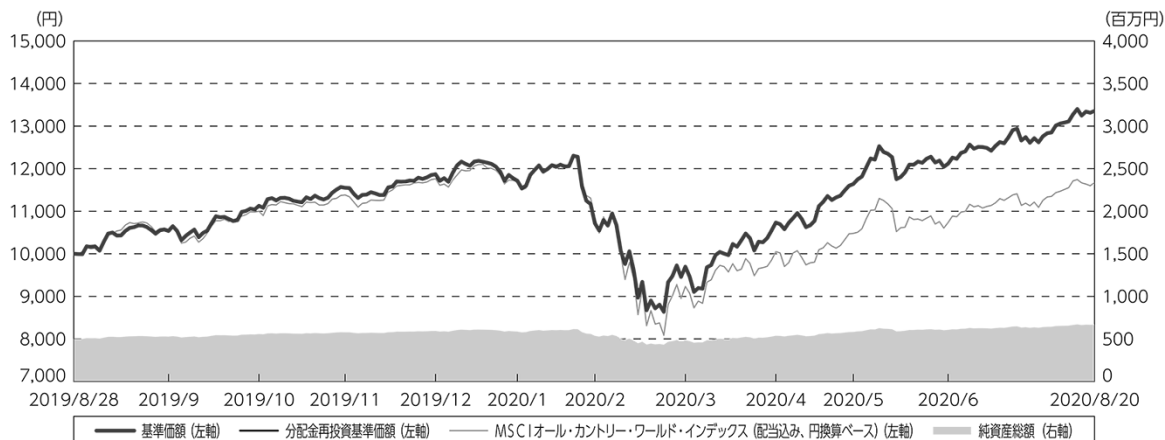
(注) 騰落率は設定日比です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」は実質比率を記載しております。

○運用経過

(2019年8月28日～2020年8月20日)

期中の基準価額等の推移



設定時：10,000円

期 末：13,356円 (既払分配金(税引前)：0円)

騰落率： 33.6% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス(配当込み、円換算ベース)は、設定時の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス(配当込み、円換算ベース)は当ファンドの参考指数です。
- (注) MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス(配当込み、円換算ベース)は、MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス(米ドルベース)をもとに委託会社が円換算して計算したものです。MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス(米ドルベース)は、MSCI Inc.が開発した、日本を含む先進国および新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものであり、指数に関する著作権、知的財産権その他の権利はMSCI Inc.に帰属します。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

マザーファンドを通じて投資を行った結果、当ファンドの基準価額は設定時10,000円から期末13,356円となり、3,356円の値上がりとなりました。

国内外の株式市場全体が上昇したことに加え、保有する投資対象銘柄の選択・投資割合の管理がプラスに寄与したことが、基準価額の主な値上がり要因となりました。

投資環境

グローバル株式市況

グローバル株式市場は、設定時と比較して上昇しました。米中貿易摩擦問題や英国のEU（欧州連合）離脱問題等を巡る先行きの不透明感がリスク要素として懸念されていましたが、FRB（米連邦準備制度理事会）に代表される主要国中央銀行の金融緩和政策や製造業を中心とした景気の底入れ期待等から上昇基調で推移しました。2020年2月から3月にかけて、新型肺炎問題に伴う経済活動の停滞懸念などから一時的に大幅下落する場面も見られましたが、その後は各国による大規模な経済政策や金融政策への期待等を背景に底打ちし、再び上昇基調に転じました。

為替市況

設定時と比較して、円は米ドルに対して小幅円安となりました。

米欧の政治リスクが不透明要素となりつつも、製造業を中心とする景気回復期待や米長期金利の緩やかな上昇に伴い、円は米ドルに対して緩やかに円安基調で推移しました。2020年2月以降、新型肺炎問題を受けてFRBが実施した緊急利下げ等が円高圧力、企業や金融機関による米ドル確保の動き等が円安圧力となり、円は米ドルに対し一次乱高下しましたが、その後は市場の混乱が沈静化するなか、FRBのさらなる金融緩和策に対する期待の高まり等を受けて、円高基調で推移しました。

ユーロに対しても円安となりました。特に2020年5月以降において、新型肺炎問題を受けた各国の政策や、欧州復興基金の設立合意などから景気回復への期待が高まり、ユーロ高が進みました。

当ファンドのポートフォリオ

当ファンド

RAMグローバル厳選株式マザーファンド受益証券を高位に組入れて運用を行いました。

なお、実質組入外貨建資産については、為替ヘッジ（為替の売り予約）は行っておりません。

RAMグローバル厳選株式マザーファンド

国内および海外の金融商品取引市場に上場されている株式を主要投資対象とし、経営戦略とその実行力に主眼を置いた調査・分析を行い、グローバルなビジネス市場において持続的な競争優位性を持つと期待できる銘柄を厳選して投資を行いました。

当期のファンドの基準価額に影響を与えた主な投資企業は以下のとおりです。

<プラス要因>

■ エヌビディア（米国）

GPU（画像処理用半導体）の世界トップ企業で、次世代ITのコア企業として注目しており、3Dゲーム市場での圧倒的なシェアを基盤にAI（人工知能）やADAS（先進運転システム）分野での飛躍的な成長が期待されています。自社の強みが生きる設計と用途開拓に限定した戦略実行で、スピーディに時代や技術トレンドの変化に対応しており、競合企業とは埋めがたい格差を構築できていると評価しています。AI機能に対する社会的ニーズの急拡大に加え、足元はコロナ禍での巣ごもり需要が後押しする形でゲーム市場向けが好調なことが業績を押し上げており、株価は直近1年で3倍近くまで上昇しました。

■ エムスリー（日本）

医療従事者専用サイト「m3. com」を運営するインターネット企業です。医師登録率は日本ではほぼ100%、米英80%、中国60%と高水準となっており、それらを活かした医療・医薬品情報提供サイト、治験支援サービスなど周辺事業を拡大しています。国内では、医師会をトップとした序列、カルテ、医師の技能差、医療の地域差など様々な非効率性が存在しており、そうした非効率性を一つ一つ解消して収益として取り込み、海外にも横展開していくことで持続的な成長が続くと評価しています。好調な業績に加え、コロナ禍を機に医薬品会社のMR（医薬情報担当者）の削減、当社サイトの利用率アップへの期待が株価を押し上げました。

<マイナス要因>

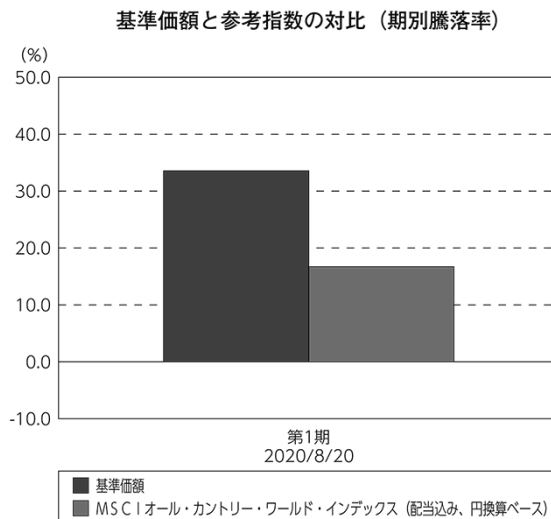
■ ラショナル（ドイツ）

高度な自動調理機能を持つスチームコンベクションオープン（熱と蒸気の量や温度を調整することで様々な調理を可能にする万能調理器具）を主力製品とする業務用調理器具のグローバルメーカーです。営業担当者の大半が元シェフで、研究開発にも多くの元シェフが加わるなど現場経験を活かした顧客目線を重視する体制を採っています。高いブランド認知と差別化された商品展開により、数多く残る旧来型の調理器具への置き換えを進めることで安定した成長が可能と判断しています。コロナ禍で主力顧客である外食産業の業績が落ち込みで受注減少が懸念され、株価は低調となりました。しかしながら、調理効率化の流れは変わらず、スーパーマーケットなど新たな需要先開拓も進んでおり、現状投資判断は変更していません。

当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

グラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率の対比です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。

分配金

当期の収益分配金につきましては、基準価額の水準、市況動向等を勘案した上で、分配を見送りとさせていただきます。収益分配にあてなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり・税込み)

項 目	第 1 期
	2019年 8 月28日～ 2020年 8 月20日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	— %
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	3,356

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

当ファンド

引き続き、RAMグローバル厳選株式マザーファンド受益証券を高位に組入れて運用を行う方針です。なお、原則として、実質組入外貨建資産については、為替ヘッジ（為替の売り予約）は行いません。

RAMグローバル厳選株式マザーファンド

引き続き、国内および海外の金融商品取引市場に上場されている株式を主要投資対象とし、経営戦略とその実行力に主眼を置いた調査・分析を行い、グローバルなビジネス市場において持続的な競争優位性を持つと期待できる銘柄を厳選した投資を継続します。

足元ではコロナワクチンの開発、経済活動再開による景気回復期待から世界的に株価は戻り歩調を強めていますが、コロナウイルス感染再拡大への懸念から、景気の先行き不透明感は依然として強く、株式相場は変動性の大きい、不安定な動きが予想されます。

そうしたなか、短期的な相場動向に左右されず、競争に勝ち続け、持続的な成長確度が高い企業を長期的な視点から見極めていくべく、徹底した深掘り調査・分析を進めてまいります。また、コロナ禍に伴う社会構造の変化にも十分留意したうえで、銘柄選択を行います。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2019年8月28日～2020年8月20日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	181	1.618	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(89)	(0.793)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(89)	(0.793)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の 情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(4)	(0.032)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	18	0.161	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 株 式 ）	(18)	(0.161)	
(c) 有 価 証 券 取 引 税	2	0.018	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（ 株 式 ）	(2)	(0.018)	
(d) そ の 他 費 用	15	0.134	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	(14)	(0.121)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の 送金・資産の移転等に要する費用
（ 監 査 費 用 ）	(1)	(0.009)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ そ の 他 ）	(0)	(0.004)	その他は、ファンドの運営管理にかかる費用等
合 計	216	1.931	
期中の平均基準価額は、11,207円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

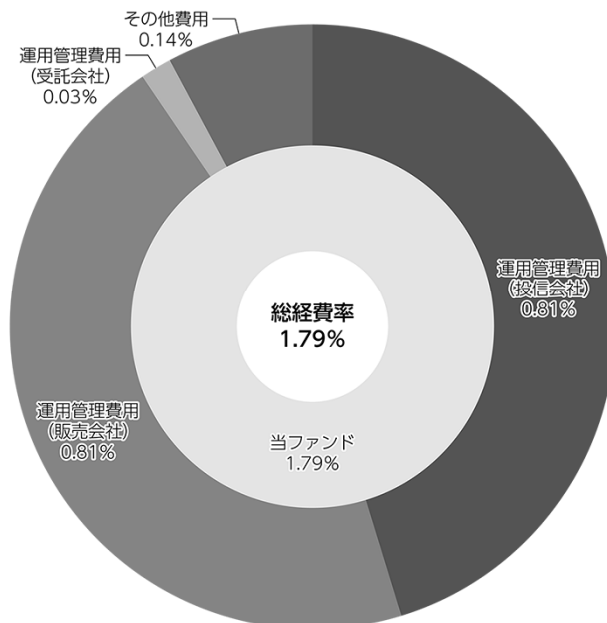
(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.79%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2019年8月28日～2020年8月20日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
RAMグローバル厳選株式マザーファンド	千口 499,700	千円 499,700	千口 8,007	千円 9,140

○株式売買比率

(2019年8月28日～2020年8月20日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項目	当期
	RAMグローバル厳選株式マザーファンド
(a) 期中の株式売買金額	817,455千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	546,635千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.49

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注) 外国の取引金額は、各月末（決算日の属する月については決算日）の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算した金額の合計です。

○利害関係人との取引状況等

(2019年8月28日～2020年8月20日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2019年8月28日～2020年8月20日)

該当事項はございません。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2019年8月28日～2020年8月20日)

設定時残高 (元本)	当期設定 元本	当期解約 元本	期末残高 (元本)	取引理由
百万円 1	百万円 -	百万円 -	百万円 1	当初設定時における取得

○組入資産の明細

(2020年8月20日現在)

親投資信託残高

銘	柄	当 期 末	
		口 数	評 価 額
		千口	千円
RAMグローバル厳選株式マザーファンド		491,692	667,522

○投資信託財産の構成

(2020年8月20日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
RAMグローバル厳選株式マザーファンド	667,522	99.3
コール・ローン等、その他	4,763	0.7
投資信託財産総額	672,285	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

(注) RAMグローバル厳選株式マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(553,811千円)の投資信託財産総額(667,506千円)に対する比率は83.0%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1米ドル=106.09円、1ユーロ=125.67円、1デンマーククローネ=16.88円、1香港ドル=13.69円、1新台幣ドル=3.61円。

○特定資産の価格等の調査

(2019年8月28日～2020年8月20日)

該当事項はございません。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2020年8月20日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	672,285,020
コール・ローン等	4,762,617
RAMグローバル厳選株式マザーファンド(評価額)	667,522,403
(B) 負債	4,476,743
未払信託報酬	4,451,590
未払利息	12
その他未払費用	25,141
(C) 純資産総額(A-B)	667,808,277
元本	500,000,000
次期繰越損益金	167,808,277
(D) 受益権総口数	500,000,000口
1万口当たり基準価額(C/D)	13,356円

(注) 当ファンドの設定時元本額は500,000,000円、期中追加設定元本額は0円、期中一部解約元本額は0円です。

(注) 当期末の1口当たり純資産額は1.3356円です。

○損益の状況 (2019年8月28日～2020年8月20日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 2,075
支払利息	△ 2,075
(B) 有価証券売買損益	176,962,403
売買益	177,002,559
売買損	△ 40,156
(C) 信託報酬等	△ 9,152,051
(D) 当期損益金(A+B+C)	167,808,277
(E) 計(D)	167,808,277
(F) 収益分配金	0
次期繰越損益金(E+F)	167,808,277
分配準備積立金	167,808,277

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(3,204,698円)、費用控除後の有価証券等損益額(164,603,579円)より分配対象収益は167,808,277円(1万口当たり3,356円)ですが、当期に分配した金額はありません。

○分配金のお知らせ

1万口当たり分配金(税込み)	0円
----------------	----

○お知らせ

当ファンドが投資対象とするRAMグローバル厳選株式マザーファンドにおいて、株式等の運用に関し、株式会社そな銀行による助言を受けておりましたが、2019年12月19日付で当該助言契約を解約しました。

RAMグローバル厳選株式マザーファンド

運用報告書

第1期（決算日 2020年8月20日）
（2019年8月28日～2020年8月20日）

当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	2019年8月28日から無期限です。
運用方針	<p>①主として、日本を含む先進国および新興国の金融商品取引所に上場または店頭登録されている株式*に投資し、信託財産の積極的な成長を目指します。 *上場予定、店頭登録予定を含みます。 *DR（預託証券）もしくは株式と同等の投資効果が得られる権利を表示する証券および証書等を含みます。</p> <p>②経営戦略とその実行力に主眼を置いた調査・分析を行い、グローバルなビジネス市場において持続的な競争優位性を持つと期待できる銘柄を厳選して投資を行います。</p> <p>③株式の組入比率は、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。</p> <p>④組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。</p>
主要投資対象	・国内および海外の金融商品取引市場に上場されている株式
主な投資制限	・株式への投資割合には、制限を設けません。 ・外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。

りそなアセットマネジメント 株式会社

【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額		MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス (配当込み、円換算ベース)		株組入比率	純資産総額
	騰落	中率	(参考指数)	騰落率		
(設定日)	円	%		%	%	百万円
2019年8月28日	10,000	—	110,291.26	—	—	499
1期(2020年8月20日)	13,576	35.8	128,727.59	16.7	99.1	667

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額（元本＝10,000円）です。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

(注) MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス（配当込み、円換算ベース）は、MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス（米ドルベース）をもとに委託会社が円換算して計算したものです。MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス（米ドルベース）は、MSCI Inc. が開発した、日本を含む先進国および新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものであり、指数に関する著作権、知的財産権その他の権利はMSCI Inc. に帰属します。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス (配当込み、円換算ベース)		株組入比率
	騰落	率	(参考指数)	騰落率	
(設定日)	円	%		%	%
2019年8月28日	10,000	—	110,291.26	—	—
8月末	10,177	1.8	112,398.45	1.9	95.6
9月末	10,552	5.5	116,649.33	5.8	95.8
10月末	11,159	11.6	121,320.19	10.0	96.2
11月末	11,600	16.0	125,531.11	13.8	95.4
12月末	11,937	19.4	129,735.04	17.6	96.8
2020年1月末	11,799	18.0	128,973.81	16.9	98.6
2月末	10,806	8.1	119,656.12	8.5	98.6
3月末	9,791	△ 2.1	101,820.04	△ 7.7	98.1
4月末	10,854	8.5	110,845.67	0.5	98.8
5月末	11,787	17.9	115,582.06	4.8	99.0
6月末	12,286	22.9	118,392.47	7.3	98.9
7月末	12,816	28.2	122,319.03	10.9	98.9
(期末)					
2020年8月20日	13,576	35.8	128,727.59	16.7	99.1

(注) 騰落率は設定日比です。

○運用経過

(2019年8月28日～2020年8月20日)

期中の基準価額等の推移

○基準価額の主な変動要因

基準価額は設定時10,000円から期末13,576円となり、3,576円の値上がりとなりました。

国内外の株式市場全体が上昇したことに加え、保有する投資対象銘柄の選択・投資割合の管理がプラスに寄与したことが、基準価額の主な値上がり要因となりました。

基準価額等の推移

(2019年8月28日～2020年8月20日)



(注) 参考指数は設定時の値をファンド基準価額と同一となるよう指数化しています。

投資環境

グローバル株式市況

グローバル株式市場は、設定時と比較して上昇しました。米中貿易摩擦問題や英国のEU（欧州連合）離脱問題等を巡る先行きの不透明感がリスク要素として懸念されていましたが、FRB（米連邦準備制度理事会）に代表される主要国中央銀行の金融緩和政策や製造業を中心とした景気の底入れ期待等から上昇基調で推移しました。2020年2月から3月にかけて、新型コロナウイルス問題に伴う経済活動の停滞懸念などから一時的に大幅下落する場面も見られましたが、その後は各国による大規模な経済政策や金融政策への期待等を背景に底打ちし、再び上昇基調に転じました。

為替市況

設定時と比較して、円は米ドルに対して小幅円安となりました。

米欧の政治リスクが不透明要素となりつつも、製造業を中心とする景気回復期待や米長期金利の緩やかな上昇に伴い、円は米ドルに対して緩やかに円安基調で推移しました。2020年2月以降、新型コロナウイルス問題を受けてFRBが実施した緊急利下げ等が円高圧力、企業や金融機関による米ドル確保の動き等が円安圧力となり、円は米ドルに対し一次乱高下しましたが、その後は市場の混乱が沈静化するなか、FRBのさらなる金融緩和策に対する期待の高まり等を受けて、円高基調で推移しました。

ユーロに対しても円安となりました。特に5月以降において、新型コロナウイルス問題を受けた各国の政策や、欧州復興基金の設立合意などから景気回復への期待が高まり、ユーロ高が進みました。

当ファンドのポートフォリオ

国内および海外の金融商品取引市場に上場されている株式を主要投資対象とし、経営戦略とその実行力に主眼を置いた調査・分析を行い、グローバルなビジネス市場において持続的な競争優位性を持つと期待できる銘柄を厳選して投資を行いました。

当期のファンドの基準価額に影響を与えた主な投資企業は以下のとおりです。

<プラス要因>

■ エヌビディア（米国）

GPU（画像処理用半導体）の世界トップ企業で、次世代ITのコア企業として注目しており、3Dゲーム市場での圧倒的なシェアを基盤にAI（人工知能）やADAS（先進運転システム）分野での飛躍的な成長が期待されています。自社の強みが生きる設計と用途開拓に限定した戦略実行で、スピーディに時代や技術トレンドの変化に対応しており、競合企業とは埋めがたい格差を構築できていると評価しています。AI機能に対する社会的ニーズの急拡大に加え、足元はコロナ禍での巣ごもり需要が後押しする形でゲーム市場向けが好調なことが業績を押し上げており、株価は直近1年で3倍近くまで上昇しました。

■ エムスリー（日本）

医療従事者専用サイト「m3.com」を運営するインターネット企業です。医師登録率は日本ではほぼ100%、米英80%、中国60%と高水準となっており、それらを活かした医療・医薬品情報提供サイト、治験支援サービスなど周辺事業を拡大しています。国内では、医師会をトップとした序列、カルテ、医師の技能差、医療の地域差など様々な非効率性が存在しており、そうした非効率性を一つ一つ解消して収益として取り込み、海外にも横展開していくことで持続的な成長が続くと評価しています。好調な業績に加え、コロナ禍を機に医薬品会社のMR（医薬情報担当者）の削減、当社サイトの利用率アップへの期待が株価を押し上げました。

<マイナス要因>

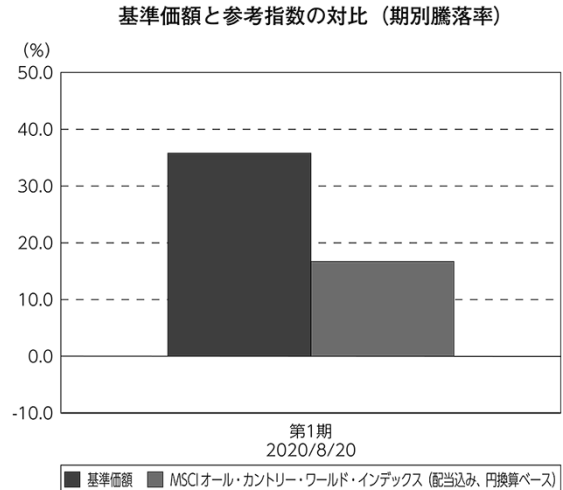
■ ラショナル（ドイツ）

高度な自動調理機能を持つスチームコンベクションオープン（熱と蒸気の量や温度を調整することで様々な調理を可能にする万能調理器具）を主力製品とする業務用調理器具のグローバルメーカーです。営業担当者の大半が元シェフで、研究開発にも多くの元シェフが加わるなど現場経験を活かした顧客目線を重視する体制を採っています。高いブランド認知と差別化された商品展開により、数多く残る旧来型の調理器具への置き換えを進めることで安定した成長が可能と判断しています。コロナ禍で主力顧客である外食産業の業績が落ち込みで受注減少が懸念され、株価は低調となりました。しかしながら、調理効率化の流れは変わらず、スーパーマーケットなど新たな需要先開拓も進んでおり、現状投資判断は変更していません。

当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

グラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率の対比です。



○今後の運用方針

引き続き、国内および海外の金融商品取引市場に上場されている株式を主要投資対象とし、経営戦略とその実行力に主眼を置いた調査・分析を行い、グローバルなビジネス市場において持続的な競争優位性を持つと期待できる銘柄を厳選した投資を継続します。

足元ではコロナワクチンの開発、経済活動再開による景気回復期待から世界的に株価は戻り歩調を強めています。新型コロナウイルス感染再拡大への懸念から、景気の先行き不透明感は依然として強く、株式相場は変動性の大きい、不安定な動きが予想されます。

そうしたなか、短期的な相場動向に左右されず、競争に勝ち続け、持続的な成長確度が高い企業を長期的な視点から見極めていくべく、徹底した深掘り調査・分析を進めてまいります。また、コロナ禍に伴う社会構造の変化にも十分留意したうえで、銘柄選択を行います。

○1万口当たりの費用明細

(2019年8月28日～2020年8月20日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 18 (18)	% 0.161 (0.161)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有 価 証 券 取 引 税 (株 式)	2 (2)	0.018 (0.018)	(b) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (そ の 他)	14 (14) (0)	0.125 (0.121) (0.004)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 その他は、ファンドの運営管理にかかる費用等
合 計	34	0.304	
期中の平均基準価額は、11,297円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2019年8月28日～2020年8月20日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国 内	上場	千株	千円	千株	千円
		20 (1)	112,238 (-)	6	33,978
外 国	アメリカ	百株 195	千米ドル 3,168	百株 45	千米ドル 924
	ユーロ		千ユーロ		千ユーロ
	ドイツ	3	232	0.6	42
	フランス	13	174	2	36
	オランダ	8	172	3	78
	デンマーク	28	千デンマーククローネ 1,539	7	千デンマーククローネ 386
香港	170	千香港ドル 1,740	18	千香港ドル 194	
台湾	751 (6)	千新台幣ドル 23,812 (-)	20	千新台幣ドル 655	

(注) 金額は受け渡し代金。

(注) ()内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

(2019年8月28日～2020年8月20日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	817,455千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	546,635千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.49

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注) 外国の取引金額は、各月末(決算日の属する月については決算日)の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算した金額の合計です。

○利害関係人との取引状況等

(2019年8月28日～2020年8月20日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況（2019年8月28日～2020年8月20日）

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2020年8月20日現在)

国内株式

銘	柄	当 期 末	
		株 数	評 価 額
		千株	千円
医薬品 (34.9%)			
塩野義製薬		3.2	20,000
ペプチドリーム		4.3	18,791
電気機器 (39.7%)			
日本電産		3	26,259
キーエンス		0.4	17,772
サービス業 (25.4%)			
エムスリー		4.6	28,198
合 計	株 数 ・ 金 額	15	111,020
	銘 柄 数 < 比 率 >	5	<16.6%>

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

外国株式

銘柄	株数	期末		業種等
		評価額		
		外貨建金額	邦貨換算金額	
(アメリカ)	百株	千米ドル	千円	
DANAHER CORP	11	234	24,905	ヘルスケア機器・サービス
WALT DISNEY CO/THE	16	205	21,796	メディア・娯楽
ECOLAB INC	9	187	19,887	素材
AMPHENOL CORP-CL A	20	227	24,083	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
GARTNER INC	14	182	19,388	ソフトウェア・サービス
NIKE INC -CL B	18	201	21,388	耐久消費財・アパレル
VISA INC-CLASS A SHARES	9	196	20,896	ソフトウェア・サービス
VMWARE INC-CLASS A	13	183	19,457	ソフトウェア・サービス
ABIOMED INC	7	243	25,879	ヘルスケア機器・サービス
ADOBE INC	4	226	24,017	ソフトウェア・サービス
ALIGN TECHNOLOGY INC	7	221	23,446	ヘルスケア機器・サービス
ANSYS INC	7	228	24,237	ソフトウェア・サービス
AMAZON.COM INC	0.8	260	27,672	小売
INTUITIVE SURGICAL INC	3	230	24,426	ヘルスケア機器・サービス
NVIDIA CORP	5	267	28,331	半導体・半導体製造装置
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	150 15	3,297 -	349,814 <52.4%>
(ユーロ…ドイツ)		千ユーロ		
RATIONAL AG	3	169	21,327	資本財
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	3 1	169 -	21,327 <3.2%>
(ユーロ…フランス)				
DASSAULT SYSTEMES SA	11	168	21,161	ソフトウェア・サービス
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	11 1	168 -	21,161 <3.2%>
(ユーロ…オランダ)				
ASML HOLDING NV	5	183	23,098	半導体・半導体製造装置
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	5 1	183 -	23,098 <3.5%>
ユーロ計	株数・金額 銘柄数<比率>	20 3	521 -	65,587 <9.8%>
(デンマーク)		千デンマーククローネ		
CHR HANSEN HOLDING A/S	20	1,478	24,961	素材
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	20 1	1,478 -	24,961 <3.7%>
(香港)		千香港ドル		
SHENZHOU INTERNATIONAL GROUP	152	1,655	22,660	耐久消費財・アパレル
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	152 1	1,655 -	22,660 <3.4%>
(台湾)		千新台幣ドル		
TAIWAN SEMICONDUCTOR MANUFAC	156	6,669	24,075	半導体・半導体製造装置
KING SLIDE WORKS CO LTD	152	5,092	18,382	テクノロジー・ハードウェアおよび機器
CUB ELECPARTS INC	354	4,939	17,833	自動車・自動車部品
VOLTRONIC POWER TECHNOLOGY	75	7,470	26,966	資本財
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	737 4	24,170 -	87,257 <13.1%>
合計	株数・金額 銘柄数<比率>	1,080 24	- -	550,281 <82.4%>

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 邦貨換算金額欄の< >内は、純資産総額に対する各国別株式評価額の比率。

(注) 銘柄コード等の変更があった銘柄は、別銘柄として掲載しております。

○投資信託財産の構成

(2020年8月20日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株式	661,301	99.1
コール・ローン等、その他	6,205	0.9
投資信託財産総額	667,506	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

(注) 当期末における外貨建純資産(553,811千円)の投資信託財産総額(667,506千円)に対する比率は83.0%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1米ドル=106.09円、1ユーロ=125.67円、1デンマーククローネ=16.88円、1香港ドル=13.69円、1新台幣ドル=3.61円。

○特定資産の価格等の調査

(2019年8月28日～2020年8月20日)

該当事項はございません。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2020年8月20日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	667,506,881
コール・ローン等	6,177,053
株式(評価額)	661,301,757
未収配当金	28,071
(B) 負債	7
未払利息	7
(C) 純資産総額(A-B)	667,506,874
元本	491,692,990
次期繰越損益金	175,813,884
(D) 受益権総口数	491,692,990口
1万口当たり基準価額(C/D)	13,576円

(注) 当ファンドの設定時元本額は499,700,000円、期中追加設定元本額は0円、期中一部解約元本額は8,007,010円です。

(注) 2020年8月20日現在の元本の内訳は以下の通りです。

・グローバル厳選株式ファンド 491,692,990円

(注) 当期末の1口当たり純資産額は1.3576円です。

○損益の状況 (2019年8月28日～2020年8月20日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	3,409,357
受取配当金	3,421,205
受取利息	970
支払利息	△ 12,818
(B) 有価証券売買損益	174,235,845
売買益	195,360,614
売買損	△ 21,124,769
(C) 保管費用等	△ 698,328
(D) 当期損益金(A+B+C)	176,946,874
(E) 解約差損益金	△ 1,132,990
(F) 計(D+E)	175,813,884
次期繰越損益金(F)	175,813,884

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(E)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

○お知らせ

株式等の運用に関し、株式会社りそな銀行による助言を受けておりましたが、2019年12月19日付で当該助言契約を解約しました。